

2023年度 自己評価（教職員編）の結果及び改善策

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

・担当するクラスの週案を確認し、その日の動きや配慮事項を把握するようにしている。

・子ども達の興味関心に合わせ計画を臨機応変に変更していく。

・0歳児クラスの保育補助として、担任も初めてという体制で年度前から引継等に十分備えた。一人一人の生活リズムを大切に、月齢に合わせた配慮も丁寧に行っていると感じている。担任、副担が知恵を出し合って作り上げられ保育の賜物と思う。

・担任の週案を基にその都度子どもたちに必要な関わりを考え、安心して過ごせるよう配慮しているが、全体の中でどこまで一緒にできるのかいつも迷いつつ、楽しさを感じられることを常に心がけている。

・園の方針に従っている。

・担任の計画に基づき、他の保育者と連携しながら保育にあたっている。

▲日々子どもの様子に合わせた内容で計画されてはいたが、年間の見通しがつかめなかった点が課題。来年度は改善したい。

▲年齢に合ったねらいなのか、日々の積み重ねが出来ているのか確認し合う必要がある。

○職員が当園の教育理念および目標を十分に理解した上で、子どもの実態把握に努め、全職員がそれらを共有する時間を適宜設けながら計画を立てていく。

II 「保育の有り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

・手本となるような言動、振る舞いを心がけ、丁寧に接するようにしている。

・丁寧な保育活動を提供できていると思う。各家庭での時間の延長として型にはめず、必要に応じて動きやすい環境とゆったりできる環境、本児が自ら望んでする姿を見守る側として、家で赤ちゃんを見ているような気持ちになった。

・支援の必要な子の関わりが中心になる中、親子共に安心して楽しく過ごせることを一番に考えて関わるよう努めている。

・0歳は母親に成り代わって生活そのものを受け継ぐことが他の年齢とは違う。また、個々の生活リズムを園のリズムに変えて整えてあげることも大事な点だと思う。特に健康管理や体の傷はこまめに視診する必要がある。ミルクから離乳食へ、さらに未満児食への移行は大変だった。保護者、栄養士、看護師との連携も必要となる。今年はずいぶんアレルギーや熱性けいれんのお子さんがいて配慮した。子どもへの対応は常に優しくするようにしている。

・幼児の心を傷つける事のないよう気をつけている。

・業務以外でも乳幼児について、人そのものや人との関わりについて学び、ふれあいを大切にしながら保育に生かしている。

・一人一人に丁寧に対応したいと思う。

▲年齢に合う保育か？子供のための保育課？保育士の為の保育になっていないか？疑問を持つことが必要なのではないかと思う。

▲どこまでが適切で、どこからが不適切なのかわからなくなった。園内で共通理解の時間が必要だと思う。

○より良い保育のために職員同士が意見し合える風通しの良い職場を目指す。

○保育を要する子どもが増えつつある今、保護者の理解や協力を得ながら安全な保育を実施するために無理のない体制を構築していく。

○実態に即した保育が展開されているかを日々の振り返りで確認する。

○今日よりも明日に子どもたちの成長をつなげられる教育・保育活動に努める。

○職員一人一人がいつでも誰に対しても同様の対応であり、人として恥じない振る舞いに努める。

Ⅲ 「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

・日々の保育を反省し、入るクラスの保育者と子どもについての情報を共有し理解を深めるようにしている。穏やかな気持ちで保育にあたり、チームワークを大切にしたいと考えている。

・長く要支援のこと関わりが中心になる中で、一人一人の違いを見極めた対応を考えつつ、色々な変化に対応していけるよう努めている。他の保育者と連携しながら今までの経験も伝えていけるよう心がけている。

・初めて0歳児担任をした。こまめな対応や記録の付け方は戸惑ったが、気長に子どもの気持ちに寄り添う事ができ、自分には向いていると思う。育児経験も生かされた。他の保育者との連携もできてよかった。子供は可愛く、日々楽しめている。

・求められる事に答えられるよう、努力している

・今年度は新たな挑戦の一年だったが、その中で精一杯できる限りのことをしようと努めた。自分自身の心の安定や体を健やかに保つことも大切なことだと考え、体を整えたり休日はリフレッシュしたり、保育に生かせる講習会等に参加し、自己研鑽に努めている。

・子どもを威圧するのではなく、寄り添い個性に合った対応をしていきたい。

▲保育士の思いだけで保育するのは資質があっても能力があっても子どものためにならないと感じている

○子どもの実態を十分に把握した上で保育計画を進めるべきであり、常に保育者として適切な対応ができていないか否かを省みること、また自分に不足している部分を知り、それを補うための努力や資質向上のための研鑽を積むことに惜しまず時間を作ることに努めていく。

○内外問わず、職員に対して必要と思われる研修に意欲的な参加を園として促していく。

Ⅳ 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

・保護者には丁寧な接し（言葉も態度も）、聞かれたことは確実に担任保育士に伝えるように気をつけている。

・年々様々なタイプの保護者が増えてきて対応に悩むことが多くなった。保育者間で相談しながら対応するようにしている。

・園で安心して楽しく過ごす子どもの様子から、保護者が安心して子どもを園に通わせてくれたらとの思いの中ですごしている。保護者が不安にならない様に、職員間の伝達がしっかりできたらと思う

・保護者から子どもに関する情報を確認する必要があるため、コミュニケーションをたくさん取るよう努めた。忙しく働く保護者のことを踏まえメモを渡すなどこまめな対応にも心掛けた。

・バス添乗時など、こどもの様子を伝えるようにしている

・心の通ったやりとりができるよう、丁寧な対応を心がけている。保護者の方から信頼される存在でありたい。

・誤解のないようできる限り説明対話したいと思う

▲誠意をもって平等にすることが大事だと思っているがなぜだか、不平等に感じることもある。

▲色々な保護者がいて対応が難しい

▲風邪症状で登園してくる子どもの対応は難しいと感じた。

○全ての保護者に対して同様の対応ができるよう、職員間の共通理解を徹底していく。

○保育の中の様々な出来事について情報を共有し、何事においても説明責任に努める。

○可能な限り保護者と前向きなコミュニケーションを図っていく。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

- ・春夏秋冬を感じられるよう、散歩の際自然の草花の色の変化など声掛けするようにしている。
- ・海や公園に行き季節の風や草木にふれて過ごせていると思う。
- ・幼稚園としては、文化会館の花壇の花植え、出初め式見学などできていたり、散歩の途中で挨拶を交わしたりなど、子どもたちの中に自然に芽生えているように感じる。今後も少しずつ自然に関わりが広がっていったらと思う。
- ・今年度初めて、旭児童センターを利用させてもらった。遊具やおもちゃが豊富にあり楽しめた。手作りおもちゃの参考にもなりよかった。
- ・今年度は森の幼稚園に行く機会が多く、自然の中で過ごすことが生きていく力をつけるうえで、非常に大切なことであると感じた。

▲よくわからない

- 自然教育を通した学びはとても重要な位置づけとしており、今まで通り実施していくつもりである。今まで以上に安全管理、危機管理を明確にし、その徹底に努めていく。
- コロナ禍で中止あるいは縮小されていた活動の復活を目指し、「こども聖歌隊スマイル」や「ボランティア」等の活動を通して地域に開かれた幼稚園として関わりを広げていきたい。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

- ・食育の研修に行った。他の園の保育者との交流や新たな情報がわかりためになって良かった。
- ▲実際に研修の場に参加することができていませんが、保育に関する記事や動画などを個人的にみることはあります。少しずつでも学びの場を意識できるようにしていきたいと思います。
- ▲研修会に参加できる機会が減っているので、意欲的に参加するようにしていきたい。
- ▲普段の保育に関わる避難の仕方、食事への関わりかたなど園内での研修、話し合いが必要だと思う。
- ▲中々自発的には難しいところが多くあるが、正職員の先生の研修報告など参考に少しでも自分の保育に取り入れて行きたいと思う
- ▲研修をうける機会がない
- ▲機会があれば積極的に参加したいと思う
- ▲簡単な事、小さな事でも園内研修をして、保育士自身のスキルアップに繋げることが、大切だと思う。
- 職員に対して（内外問わず）必要と思われる研修に意欲的な参加を園として促していく。
- 園内研修は年間計画を立てて行う。
- 園外研修については十分に吟味して選択する。
- 保育の充実を実現させるために必要な研修や研究の時間は基本的に水曜日午後を充てているが、保育を要する子どもの増加に伴い難しさもある中、研修時間を確保しやすい環境整備に保護者の理解も得ながら工夫していく。